



佐工だより

佐賀県立佐賀工業高等学校 総務部発行 第348号 (2021年8月)



夏休みです。1年生は、入学したての頃の初々^{ういうい}しさが懐かしいほど学校に馴染^{なじ}んだようです。また全体的にコロナの波に慣れ、行事はリモートも織り交ぜながらも例年に近い形で行われました。今年は例年通り42日の休み、やりたいことはありますか。宿題だけで満足せず、君だけの特別プランを遂行しましょう。しかし、コロナ危機が去ったわけではありませんので感染防止に努め、同時にマスクのせいで熱中症にならぬよう適宜外し、体調に留意してください。

新堀君 優勝おめでとう！ ものづくりコンテスト九州大会

7月3日・4日の両日、第20回高校生ものづくりコンテスト九州大会が福岡県で開催され、各県大会を1位で通過してきた生徒諸君が、ハイレベルな技を競いました。本校からは電子回路組立部門に別府巧基君（電子情報科3年・鍋島中）、木材加工部門に新堀 晴君（建築科2年・諸富中）が出場しました。その結果、新堀君が見事、最優秀賞を受賞しました。

建築科の青木康将先生は、「彼は素直なので短期間でよく伸びました。九州大会で勝つためには、県大会の後さらにレベルアップしなくてはいけません。この素直さに加え、足りないところを理解して自分でどうす



基板をつくる別府君

べきか考えて計画的に取り組むので大きく成長したと思います。」と新堀君のことを評しておられました。一方、僅差で入賞を逃した別府君について、指導の山下利秀先生は、「県大会は素晴らしい出来で、出題された8問を完答し、制御プログラムも全部うまく動きましたが、九州大会の課題は格段に難しく、惜しくも4位という結果になりました。全国大会の課題をしのぐレベルだったと思います。10問出題されましたが、出場した8県8名のうち、半数の4県の代表は1問も解けないほどの難問でした。別府君は前日の動作確認の時に装置の不具合を見つけ、本番はいつもと違う環境でしたが、思わぬ不具合に焦りながらもうまく対応していました。」と述べられました。



鉋(かんな)をかける新堀君

「県大会のときよりもいい作品を作れました。この間はうまくできなかった『落とし蟻』が上手にできました。ですが、全部がうまくいったわけではなく、ホゾの胴付で隙間が空くなどミスもあったので、全国大会に向けて改善していこうと思います。」

「県大会の後、県の表彰や期末テストで練習時間があまり取れず、心残りです。県大会に比べて、プログラムの問題がとて難しかったうえ、制御対象物が普段使っているものと違って、動作させるのに苦労しました。惜しくも入賞を逃しましたが、ものづくりの楽しさや達成感などたくさんを学ぶことができました。」

新堀君は11月に神奈川県で開催される全国大会への出場を決めたほか、来年8月に行われる、若年者ものづくり競技大会の出場権を獲得しました。



出来上がった作品

4×100mリレー 佐賀県高校新記録で北九州大会1位

6月16日から18日、秩父宮賜杯第74回全国高等学校陸上競技対校選手権大会北九州地区予選大会が大分県で行われました。本校の陸上競技部は4×100メートルリレーで、昨年の本校チーム（当時3年生の田中雄大君・当時2年生の田中翔大君、末次拓海君、フェルナー英輝君）が出した佐賀県高校新記録を塗り替える40秒86のタイムで優勝を飾りました。今チームは、今年3年生になった昨年のメンバー3人に江口大翔君を加えた4人です。また短距離のエース・田中翔大君は100メートルでも10秒53の記録で第1位、200メートルでは21秒24（佐賀県高校新記録）で第2位と素晴らしい成績でした。この夏、福井県で行われるインターハイにこれらの種目で出場が決まっています。更なる記録更新を目指して頑張ってください。

フェルナー英輝君

（シ3・城南中）

「個人戦は出場できなかった
ので、リレーだけに集中して
練習しました。少し不安もあり
ましたが、緊張せずに走れた
と思います。インターハイでは
更に記録を伸ばして優勝した
いです。」

田中翔大君（シ3・鳥栖西中）

「競技前は、絶対に40秒台を出して
やるという気持ちでした。自分の走り
としては、100m、200mの疲労が
ありましたが、その時にできるベスト
の走りはできたと思います。」

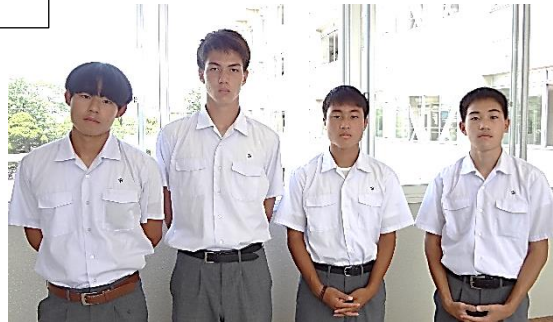


県高校総体より

末次拓海君

（シ3・武雄中）

「競技前は特に緊張はし
てなくて、いつも通りやろ
うと思っていました。2種
目の個人競技の後で疲
れていましたが、なんと
か走りきることができま
した。」



リレーメンバー。左から 末次君 フェルナー君
田中君 江口君

江口大翔君（ケ3・武雄中）

「準決勝から走ることになり、緊
張しました。準決勝では体の動
きが硬くなり、練習通りの走り
ができませんでしたが、決勝で
は緊張が少し和らぎ、練習通り
の走りができたのでよかったです。
優勝し、県記録を出すこと
ができて嬉しかったです。」

卒業生 堤ほの花さん 東京オリンピック出場



本校卒業生である堤ほの花さんの東京オリンピック・ラグビー女子7人制競技出場を応援する懸垂幕が同窓会から寄贈され、7月5日に掲揚されました。堤さんは2016年3月に本校電子情報科を卒業し、日本体育大学に進学。大学を卒業して2年、ディックソリューションエンジニアリング

に所属し、オリンピックを目指してきました。現ラグビー部員にとって堤さんは憧れの存在です。女子キャプテンの峰愛美さん（電子情報科3年・緑が丘中）は「ほの花さんは近い存在でもあり、（オリンピックに出場する今）遠い存在でもあります。佐賀工業からオリンピック選手が出ることは誇りです。部員一同応援していま



先輩に憧れる女子部員一同

す。」と先輩のオリンピック出場についての思いを語りました。

コロナ禍が収まらないどころか、今後はデルタ株の隆盛が予測される中、まもなく東京オリンピックが開幕します。世の中では中止を訴える声も多く聞かれますから皆さんの中でも賛否両論あることでしょう。反対する人も、いざ卒業した先輩が出場となると、出るからには頑張ってもらいたいと願わずにはおれないことと思います。先輩の活躍を期待しましょう。

生徒会長選挙 次期会長は岡 凜太郎君

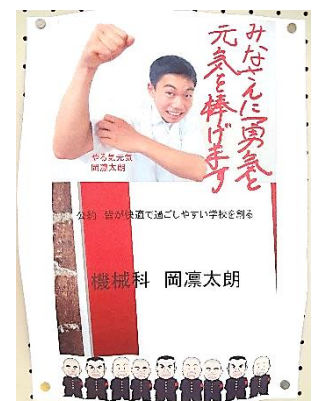
7月13日(火)、生徒会長選挙がリモートで行われました。候補者は届け出順に、電子科・宮本真衣さん、建築科・野中悠生君、電気科・森亮太君、機械科・岡凜太郎君の4名。7月7日に東



西の昇降口への候補者の写真入りポスター掲示により選挙運動が始まり、会長候補であることをアピールして、この日の立会演説会に臨みました。候補者諸君は、それぞれ堂々と公約を述べ、有権者である生徒諸君に支持を訴えました。いずれの候補者・応援演説者もよく練った原稿を準備しており、大変聴きごたえのある、誰が当選してもおかしくないと思わされる演説でした。



選挙管理委員により即日開票作業が行われ、その結果、機械科の岡凜太郎君(城東中)が最多票を獲得し、次期生徒会長に当選しました。岡君は、「皆が快適に過ごせる学校生活を創り、各階にゴミ箱を設置する」という公約を掲げました。選挙後、生徒会メンバーが募集されています。意欲のある人は、ぜひやってみましょう!



※「届け出順」という言葉は選挙についての報道でよく耳にしますが、「先着順」ではありません。「抽選」で決まります。

表彰

キ・M：機械科 K：機械システム科 テ・E：電気科 C：電子科
シ：電子情報科 I：情報システム科 ケ・A：建築科

◆秩父宮賜杯第74回全国高等学校陸上競技対校選手権大会北九州地区予選大会

男子100m	第1位	田中 翔大	(シ3・鳥栖西中)
男子200m	第2位	田中 翔大	
男子4×100mR	第1位	江口 大翔	(ケ3・武雄中)
		田中 翔大	
		フェルナー 英輝	(シ3・城南中)
		末次 拓海	(シ3・武雄中)

◆高校生ものづくりコンテスト九州大会

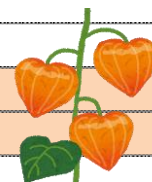
木材加工部門 最優秀賞 新堀 晴 (ケ2・諸富中)

◆九州ジュニア柔道体重別選手権大会

66kg級 第3位 大坪 奨武 (M2・三日月中)

8 月 行 事 予 定

日	曜	行事予定
1	日	小型車両系建設機械講習（3年）
2	月	全校登校日 体育祭選手決め
3	火	体験入学（1日目）
4	水	体験入学（2日目） 若年者ものづくり競技大会（愛媛）
5	木	3年登校日
6	金	3年登校日
7	土	
8	日	山の日
9	月	振替休日
10	火	学校閉庁日
11	水	
12	木	
13	金	
14	土	
15	日	
16	月	
17	火	3年登校日 工業部会進学希望者学習会
18	水	3年登校日 第2回推薦会議
19	木	3年登校日
20	金	
21	土	高校生溶接技術競技九州大会（宮崎） SAGAものスゴフェスタ2021
22	日	教員採用試験のため立入禁止
23	月	
24	火	
25	水	3年登校日
26	木	3年登校日
27	金	
28	土	
29	日	
30	月	
31	火	



佐賀県立佐賀工業高等学校

所在地 〒840-0841 佐賀市緑小路1-1

TEL 0952-24-4356

FAX 0952-25-7043

(ホームページ)

<https://www.education.saga.jp/hp/sagakougyoukoukou/>

編集後記 夏休みは課題がたくさんありますが、「勉強したい」と思うときが来るのを待ってはいけません。来ないかもしれないその時をただ待つなんて、ウサギが切り株に引っかかるのを待つみたいなものです。「いやだ」とか「やる気が出ない」とか考えずに、とにかくやろう！私もしたくない仕事はこの要領でやっています。その代表的なものは、夏休みの宿題の240人分の読書感想文を読む仕事です。生徒諸君、読んで面白い力作を頼みますよ。 K